

## ◆「海洋・港湾構造物設計士」資格制度

財団法人沿岸技術研究センターでは、標記新資格を創設したと発表しました。これは平成19年度に「港湾の施設の技術上の基準」(以下、「基準」)が

改定され、設計体系が従来の仕様設計から性能設計へと移行したことも資格制度創設の根拠となっています。性能設計では、施設に求められる性能を規定し、その性能を照査する手法などについては設計者の裁量に委ねられています。このような状況下において、これまで以上に設計成果品の良質な品質を確保しつつ、創意工夫を凝らした自由な発想に基づく設計ができる優れた技術者の確保及び育成が求められています。このため(財)沿岸技術研究センターでは、新たに海洋・港湾構造物の設計に関する資格制度を平成22年度から創設することにしたそうです。

本資格制度では、海洋・港湾構造物の設計の実務に係る技術者の専門的知識及び技術、並びに技術者倫理に関する認定試験を行い、合格された方には、申請登録により「海洋・港湾構造物設計士」の称号を付与することとなっています。

平成22年度の「海洋・港湾構造物設計士資格認定試験」に関する詳細な受験案内については、5月上旬にCDITホームページ上で掲載していますが、主な実施スケジュールは以下のようです。

試験日:平成22年8月1日(日)

**1次試験** ※ 一次試験の受験申込み;5月17日(月)~6月25日(金)インターネット申込み

試験日:平成22年12月上旬~中旬(1次試験合格者対象)

**2次試験** ※ 二次試験の受験申込み;9月上旬~10月上旬 インターネット申込み

※ 設計実務経験論文提出期間(9月上旬~10月上旬)

**資格認定** 平成23年3月下旬

注) ここで海洋・港湾構造物とは、港湾区域外も含めた航路、泊地等の水域施設、防波堤、護岸等の外郭施設、岸壁、棧橋等の係留施設をはじめとした港湾の施設を対象としています。

新資格誕生!

## ■雑学62:サンクコストとは

「サンクコスト(埋没費用)」という経済用語は、事業に投下した資金のうち、撤退・縮小したとしても回収できない費用のこと。英仏が膨大な資金を投じて開発した超音速機コンコルドが、その燃費の悪さ等から大半の航空会社が不採用としたにも関わらず運行を止めなかった…などが例としてあげられます。前向きな決断は早いですが、どうしても遅れるのが事業撤退や店舗閉鎖、人員削減といった後ろ向きの決断です。そこにサンクコストの概念があるか否かが重要とされています。



## □トカラ列島紀行

～鹿児島県十島村を訪ねて～

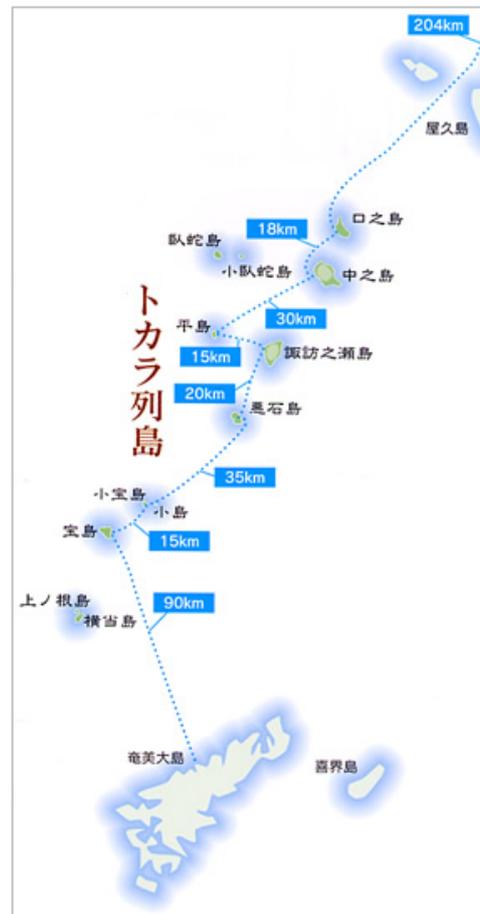
今世紀最大の皆既日食が見られる島々として昨年7月一躍有名となった、鹿児島県十島村へ行ってきました。各種港湾構造物の調査のため、鹿児島港からフェリーに乗船して約6時間、トカラ列島では一番北に位置する口之島に最初の寄航となりました。鹿児島港から約200kmの船旅です。鹿児島県十島村は、屋久島と奄美大島の間に、有人七島と無人島五島からなる南北約160kmという「南北に長い村」でした。最初に上陸したのは2つめの寄航地「中之島」、面積約34.5Km<sup>2</sup>、周囲31.8kmの十島村の中では最大の島でした。防波堤など港湾構造物には台風等による猛烈な波浪で被災した跡が若干見受けられましたが、新設された岸壁には“ようこそ中之島へ”の文字が踊っていました。天気も良く、仕事後には二ヶ所の温泉も最高で、都会の喧騒から離れ心の洗濯ができました。

また皆既日食では最も好条件と言われ、6分25秒の間日食が続くとされていた「悪石島」にも入りました。中之島からフェリーでさらに3時間20分、周囲を断崖絶壁に囲まれた島は、港から車で急な坂を5分ほど登ったところに集落がありました。ところで…皆既日食当日は雨で残念な結果だったそうです。

さて島にはコンクリートプラントと発電所が港近くにあり、土木技術が島の生活向上に貢献していることを感じました。

仕事で訪れたトカラ列島の島々ですが、住民の方々の旅人に対する優しさに触れ、ぜひまたプライベートで訪ねたいと思いました。魚釣りには絶好の場所だそうです…

(弊社では、トカラ列島の島々における港湾施設設計に関して多くの実績を有しています)



株式会社 東光コンサルタンツ

営業担当：

〒111-0041 東京都台東区元浅草4丁目9番13号  
TEL: 03-5830-5606 FAX: 03-3847-6032  
URL: <http://www.tokoc.co.jp>  
担当： 本社 技術本部 林

100612